

2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年3月28日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	山下明美
研究課題	SDGsに基づく院内学級での海洋教育の実践と課題					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	山下明美	造形デザイン・教授	色彩・視覚デザイン	調査・研究・統括	
	分担者	畠和宏	デザイン工学・助教	小児医療の環境	調査・研究	
研究実績の概要	<p>(1) 以下のような調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内学級や特別授業に関する調査 ・玉野海洋博物館と出前授業などに関する調査 ・海洋教育に関する調査 <p>主な調査視察先 しまね海洋館アクアス 玉野海洋博物館 名古屋市水族館 倉敷中央病院小児科など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した視察や文献調査から、事例調査をまとめた。 <p>(2) 小児科での出張講座の企画提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りでの遊びを取り入れた体験（倉敷中央病院小児科との協働） ・玉野市海洋博物館の出張授業の企画（玉野市海洋博物館との協働） ・広報支援（倉敷中央病院広報室との協働） <p>(3) 企画の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷中央病院小児科夏祭りでの出張水族館 ・海の生き物に親しんでもらう魚釣りなど <p>(4) 考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・実施後の考察 <p>短い時間ではあったが、患児たちも水族館や海の生き物の様子を興味深く見ている様子であった。また、魚釣りコーナーではいつものウレタンのカラフルな魚より形も色もややリアルな海の生き物にも怯むことなく、大きな魚を釣り上げて楽しんでいった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題や改善点など <p>水族館の出張講座は初めてであったこともあり、十分に伝えられたかという課題は残されたが、今後も時間や内容などを吟味し改善していくことで、患児たちも海洋教育を体験することができる手応えを得た。</p> <p>(5) 成果発表について 2019年11月に近畿大学で開催されたアートミーツケア学会2019にてポスター発表を行った。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気やケガなどで、入院生活を送り、取り残される不安を抱えたり、生きづらさを抱える子どもたちが海洋教育を体験できる場や機会について調査、実践、考察した。 ・小児科の夏祭りにおいて、患児や保護者などに玉野海洋博物館の館長が映像を交えて岡山の海の生き物について紹介した。 ・魚釣りコーナーでは前年度の「海と日本プロジェクト」の一環で学生が卒業制作として制作した図鑑の生き物ぬいぐるみを使って魚釣りを体験してもらい、海の生き物をより身近に感じてもらう試みを実施した。
<p>成果資料目録</p>	<p>アートミーツケア学会 2019 にてポスター発表 (近畿大学) 題目：SDGs 『海の生き物たち』との出会い ～『取り残される』不安を抱えた子どもたちへ 資料：ポスター発表の内容は別紙参照</p>